

【東京都・千代田区合同帰宅困難者対策訓練】

千代田区内の駅周辺に帰宅困難者が多数発生したことを想定して、駅、商業施設および公共施設の管理者などが連携し、混乱の防止や安全確保を行うための訓練の実施

日時：平成28年2月8日(月) 午前9時～午後1時頃

場所：東京駅、飯田橋駅、四ツ谷駅、秋葉原駅、霞ヶ関駅の各周辺

主催：東京都、千代田区

【多言語音声翻訳システムの活用】

- ① 帰宅困難者のうち外国語話者に対する情報提供として、語学ボランティアや国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT)が開発した多言語音声翻訳システム(Voice Tra)を活用
- ② メガホン型翻訳機を利用して秋葉原駅で外国語話者への情報提供実験を実施。また、日比谷公園において、Voice Traのほか、聴覚障害者コミュニケーション支援アプリの「こえとら」及び「Speech Canvas」を展示・紹介



メガホン型翻訳機を利用して、「落ち着いて行動してください」等を日・英・中・韓の4言語でお知らせ



英、中、韓、ベトナム語に分かれて、Voice Traで必要な情報提供等を実施

【東京マラソン2016】

日時：平成28年2月28日(日)の午前9時5分～午後4時10分

規模：都内を約3万7千人のランナーが走行

(うち約6千5百人が外国人ランナー)

主催：一般財団法人 東京マラソン財団

【多言語音声翻訳システムの活用】 ※ 東京マラソン2015に続き、今年で2度目

- ① 多言語対応ボランティアへの周知
事前説明会でVoice Traの使用方法について周知
外国語話者との会話での活用のため、ボランティア各自のスマートフォンにダウンロードして活用
- ② 救護所(スタート、沿道、フィニッシュライン等計8カ所)
Voice Tra搭載タブレットを各箇所に配置するとともに、NICTスタッフが待機
外国語話者の負傷者などへの対応に活用



メガホン型翻訳機の活用状況(浅草、銀座)

©一般財団法人 東京マラソン財団

- ③ メガホン型翻訳機
警視庁がスタート周辺、銀座、浅草及びフィニッシュの東京ビッグサイト周辺において外国人ランナー、観覧者等の誘導、案内に活用

(発話例)「混雑の原因となります。立ち止まらないでください」(日・英・中・韓)など

インフォメーション、手荷物相談所でのVoiceTraの活用



VoiceTraは雑音対策のためマイク等を接続して対応

©一般財団法人 東京マラソン財団

1. 目的

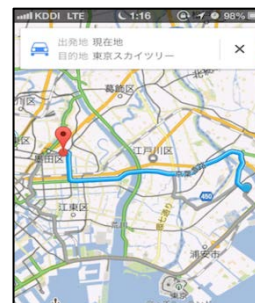
1. 運行情報や駅周辺施設等の情報を迅速に閲覧できる環境を整備し、案内サービスの充実を図る。
2. 外国人旅行者や障がい者への対応時のコミュニケーションツールとして活用し、ソフト面のバリアフリー化を推進する。
3. 乗務員・駅係員にリアルタイムの運行情報を一斉配信し、お客様への迅速・正確なご案内に活用するとともに事故対応等の迅速化を図る。

2. 運用（時期・場所・機器）

1. 運用開始：平成28年4月1日（金）～
2. 導入場所：
 - ・都営地下鉄（委託駅含む）の101駅の改札口及び駅事務室：275台
 - ・日暮里・舎人ライナー（日暮里駅・西日暮里駅）の改札口（一部を除く）及び駅事務室：5台
 - ・浅草線の乗務員（車掌）：100台
3. 導入機器：iOS iPad Air2（画面サイズ9.7インチ）

3. 機能（アプリケーション）

- ①翻訳 (VoiceTra) ②地図情報 (Google Maps) ③経路・時間 (乗換案内・駅すぱあと) ④筆談 (筆談パット)



4. 今後の対応

- 平成28年度末までに、都営地下鉄全線の全乗務員（運転士、車掌）に拡大配備
- 列車運行情報をリアルタイムで表示する機能を追加するなど、タブレット端末を活用した案内サービスの一層の充実を図っていく。



その他の取組（訪日外国人向け無料Wi-Fiサービス）

- 訪日外国人の更なる利便性向上を図るため、都営地下全4路線の車内において、無料Wi-Fiサービスを導入していく。
- 平成28年2月より、空港アクセス線でもある都営浅草線の1編成に導入し、その後平成32年（2020年）3月までに全編成に導入予定
- NTTBPのサービス（Japan Connected-free Wi-Fi）とWi2のサービス（TRAVEL JAPAN Wi-Fi）をともに導入



NTTBP



Wi2